

1990年代

- ・ ゴミと環境を考える第9回懇談会（1990年3月）
- ・ 牛乳パック、アルミ缶回収開始（1990年）
- ・ 牛乳パック回収常設ボックスを量販店に設置要望。（1991年）
- ・ 「環境バッグ」作成（1992年）
- ・ はみ出し自動販売機等道路不法占有物について、堺市道路管理課に要望（1992年）
- ・ 牛乳パック、アルミ缶回収報告と懇談会（1993年）
- ・ 青果物生産地表示実態調査（スーパー、百貨店、一般小売店）（1993年）
- ・ 牛乳パック、アルミ缶回収5周年。業者、行政、消費者の3者シンポジウム（1995年）
- ・ 「ストップ・ザ・ダイオキシン」量販店と消費者と行政の懇談会
ダイオキシン濃度堺市ワースト1にダイオキシン発生防止要望書提出（1997年）
- ・ 介護保険認定申請スタート 介護保険について学習会（1999年）

1990年3月 ゴミと環境を考える第9回懇談会

- ・ プラスチックトレイは、近代科学が生んだ画期的な容器だと、飛び入り参加した業者が発言するハプニングが発生
- ・ 今回の懇談会も平行線をたどるような話し合い。私たち消費者は今後改善されるまで運動を続ける。



1990年

牛乳パック、アルミ缶回収開始

堺市は昭和61年頃から急激にゴミが増加。
焼却能力がパンク状態になりかねない。
ゴミ減量に協力を呼びかける。



牛乳パックの回収 女性センターにて



アルミ缶の回収

・ 私たちに何ができるか？ できること

堺市内の量販店、百貨店に呼びかけ、交渉する。

スーパーの店頭で1年間、毎月第1, 3土曜日、ボランティアで牛乳パックを洗って開き、乾かして30枚(1kg)束にして受け付ける。

回収協力業者 大林商店

回収収益金は1年で締め、1円残らず堺市緑化基金として寄付。

アルミ缶は、災害が起きた国内外へ義援金として寄付。



サティ新金岡店長との話し合い



ライフ店長との話し合い

1991年

牛乳パック回収常設ボックスを量販店に設置要望。

場所、衛生面（ゴキブリの巣になる）、整理する人件費の問題点があったが、当時スーパーダイエーの中内功さんが音頭をとり、常設ボックスが実現。



ダイエー光明池店



ダイエー梅店



ダイエー鳳店

1992年6月

「環境バッグ」作成

「ゴミは作りません・売りません・買いません」を合言葉に、現在のエコバックの先駆者的存在となる「環境を守る買い物袋」を作成。



「私は地球人」「I LOVE EARTH」と書かれたバッグ

1992年 はみ出し自動販売機等道路不法占有物について、
堺市道路管理課に要望



1993年5月

牛乳パック、アルミ缶回収報告と懇談会

(行政、回収業者、量販店、百貨店、消費者)



毎日新聞 (平成5年) 10月16日

牛乳パック回収の
収益金を緑化基金へ
堺市女性団体連など
堺市女性団体連絡協議会
(山口彩子委員長)と同市
消費生活協議会(会長は同
氏)は十五日、牛乳パック
回収運動の収益金五十九万
九千六百四十円を同市都市
緑化基金(事務局、堺市公
園総務課)に寄付した。

今回の収益金は、昨年九月
から一年間、協力を得た市
内のスーパーや百貨店に持
ち寄られた計九千六百四十
円を、資源回収業者に買い取っ
てもらったもの。三年間では
計二百六十トに上り、単純計
算で、高さ八センチ、直径十四センチ
の樹木四千二百二十本分を節
約したことになるという。

両団体はアルミ缶も回収
しており、同期間で得た収
益金百一十五万四千四百円は、
その事務費と積み立てにあ
てられている。

